

H28年度「ともの家」事業報告

1. 事業全般

生活介護事業・就労継続 B 型事業・共同生活援助事業の 3 事業を、滞りなく進めてきました。理念として掲げている「生まれ育った地域で普通に働き暮らすこと」は、時代が移り変わっても、何ら色あせることはなく、この時代でも目標に掲げなくてはならない現実があります。障害者虐待防止法・障害者差別解消法など、障がい者に関する法律の整備が進んだことは、大変大きな一歩ではありますが、まだまだ、差別や偏見の心を感じます。昨年 7 月に起きた神奈川県「津久井やまゆり園」事件は、特異な考え方を持つ容疑者が起こした事件ではありますが、そういった人物が、社会の中にもいることも確かなことです。

私たちは、事業運営と目の前の仲間のことで、日々精いっぱいではありますが、障がい福祉分野に特化しない、広い視野と知識を吸収し、問題提起できる社会人でなくてはならないと強く感じた 1 年でした。

財務状況は、仲間たちの安定的な利用に助けられ、予算通り遂行できました。

災害対策については、静岡市内の事業所 12 か所と「リンク」という勉強会の組織を立ち上げました。今期はコーディネーターと提携し、BCP 作成に着手しました。1 年では作り上げられず、来期も継続します。大きな災害が起こった時、初動対応はもちろんです。が、「ともの家」の存続のために、準備しておく事柄が山積しており、ひとつひとつ準備を進めています。

職員の資質向上のための研修参加については、8 割程度遂行できましたが、下半期は作業が忙しく、研修報告を開催できず、職員共有ができませんでした。来期も引き続き重要課題として位置づけます。

2. 日中作業・活動の場

□就労継続 B 型事業

お店開店から 1 年が経過しました。この 1 年は“チャレンジ”を合言葉に、様々な場所や人と繋がり、広げてきました。働く仲間たちの成長も目を見張るものがありました。福祉の壁を越えた町のパン屋さんとして、地域に根付くいっぽを踏み出したばかりですが、リピーターも多く、売り上げも安定しています。

□介護事業

パン屋さんが移転したため、1 階の作業室を有効利用、仲間たちの作業の幅が広がりました。製菓作業・下請け作業（興津螺旋から頂くねじ箱詰め）・廃品回収・畑の水かけや石拾い・配達等々の作業のほかにも、心身の健康のために、ストレッチや足湯、ウォーキング、音楽、製作、料理作り等々、多忙で充実した日々を過ごしてきました。高齢が懸念された仲間の働き方の見直しも、これだけ多岐に渡った、活動の中で、選択する事を、大切にしてきました。

製菓作業では、新商品のシフォンケーキや定番のプリンの売れ行きが良く、真夏も作業に追われていました。仲間の回すハンドミキサーの音が、毎日作業室から聞こえていました。

3. 暮らしの場

□共同生活援助

新しい世話人や食事づくりの方々にも、すぐに慣れて、自分らしい生活を送っています。作業所では見せない笑顔や態度が、暮らしの場として、自分を出している姿だと、納得しています。5人～7人の小さな集団も心地よさを感じる要因だと思います。

健康面も、みんなで注意し合った甲斐あって、病人も出ず、冬を越すことが出来間ました。

災害対策としては、職員のみではありましたが、地域の防災訓練に参加しました。防災訓練も数回行いました。来期は仲間たちの混乱を防ぐよう、より具体的に、回数を重ねていきます。